

## みどりのまちづくりの始まり

1960年（昭和35年）ごろまでの江戸川区は、田んぼや畑が多くあり、川や海もきれいでした。

しかし、だんだんと工場や家が増えて都市化が進み、人がたくさん住むようになると、生活環境が悪くなってきました。

これではいけない、江戸川区の環境をよくしようと、区民と区がともに立ち上がりました。

1970年（昭和45年）には「毎月10日は清掃デー」や「ゆたかな心地にみどり」の標語が決まりました。そして「第1回環境浄化推進中央大会」（現在の環境をよくする運動）が開催され、7つの重点目標を確認し、「私たちのまち江戸川区を、みんなの心と力をあわせてきれいなまちにいたしましょう」と決議しました。

区民と区が一緒になって、みどりのまちづくり（緑化運動）が始まりました。



▲大量に捨てられたごみ（南葛西）



▲都市化による川や海の汚れ（古川）



▲第1回環境浄化推進中央大会（現在の環境をよくする運動）

### 7つの重点目標

- ①ごみは決められた日に決められた場所に出しましょう
- ②工場公害をなくしましょう
- ③水路に自然を取りもどそう
- ④まちから粗大ごみを一掃しよう
- ⑤公共施設をきれいにしよう
- ⑥空き地をきれいにしましょう
- ⑦カとハエを撲滅して清潔なまちにしましょう

### 第1回樹木実態調査

1972年（昭和47年）に第1回樹木実態調査が行われ、木の数や公園の広さを調べ、区民一人あたりの目標を決めました。

#### ●樹木の数●

119万3,305本  
区民一人あたり 2.6本

→ 目標 10本

#### ●公園の面積●

38万9,993.95㎡  
区民一人あたり 0.85㎡

→ 目標 10㎡

今はどのくらい増えたかな？  
14ページを見てみよう！

## これまでの緑化運動の取り組み

まちを花とみどりでいっぱいにするため、さまざまな緑化の取り組みがありました。

### ①苗木即売会 1970年（昭和45年）

第1回苗木即売会が開催され、この年2万4,214本の苗木が売れました。その後も毎年春と秋に開催され、区民の間で家庭の緑化が大きく進みました。



▲苗木即売会（小岩駅北口広場）



▲ベランダ緑化

### ②苗木の配布 1970年（昭和45年）

東部区民館落成式で苗木が記念品として配布され、その後も式典などの記念品には苗木が配布されました。

### ③緑のフェスティバルの開催

1971年（昭和46年）

行船公園で「植樹祭」「公園まつり」を都と共催し、その後、みどりを楽しむまつりとして開催されました。

### ④保護樹の指定 1973年（昭和48年）

歴史を伝える古い木を大切に残すため「保護樹」制度が始まり、283本が指定されました。

### ⑤寄贈樹の受け入れ 1973年（昭和48年）

新築や移転で使わなくなった樹木を区が公園や学校などに植栽する制度で、初年度は411本の樹木が寄贈されました。

### ⑥緑化110番 1974年（昭和49年）

家庭では困難な高木の手入れなどのみどりの相談に電話1本で対応し、初年度は550回の出動がありました。

### ⑦ベランダ緑化 1976年（昭和51年）

花を植える庭がない、という中高層住宅に住んでいる区民に広まったのが窓辺のみどりで飾る取り組みです。

### ⑧生け垣緑化 1986年（昭和61年）

私有地の道路沿いに街路樹の代わりに植栽の援助を行う制度が開始されました。

### 区の木：クスノキ 区の花：ツツジ（サツキ）の制定



1978年（昭和53年）に、緑化運動をさらにもりあげるために、区の木・区の花を区民の投票で決めました。街路樹や公園などさまざまな場所に、区のシンボルとして植えられています。

